(別記様式第3号)

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博(医)甲第1221号	氏名	岩下 淳二
論文審査担当者		主査教授	奥村 寛
		副査教授	近藤 宇史
		副査教授	矢野 捷介
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>動脈硬化症の進展に酸化ストレスによる細胞障害が関与するとされている。本研究は、高脂血症の治療薬がどのような抗酸化作用を示すのかを明らかにしようとしたもので、研究目的は明確である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>HMG-CoA 還元酵素阻害剤である高脂血症治療薬として臨床で使用されているプラバスタチンナトリウム(PSS)とフルバスタチンナトリウム(FSS)をCHO-K1細胞に添加した。酸化ストレスとしてX-線照射と抗癌剤ブレオマイシンを加えた。細胞生存率と微小核形成頻度を指標として比較検討したもので、研究手法は妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>X-線照射に対しては、PSS、FSSともに効果を認めなかった。ブレオマイシンに対しては、抗癌剤投与と同時に又は投与後にPSS及びFSSを添加すると、明らかに細胞生存率増加と微小核形成率低下が認められた。特に抗癌剤処理後に高脂血症治療薬を添加すると低濃度でその細胞防御作用が認められた。PSSとFSSとの間に抗酸化作用の差異は見られなかった。これらの結果から、ブレオマイシン処理による酸化ストレス上昇と細胞障害作用を高脂血症治療薬が消去することを示したもので、その臨床応用に対する貢献は高いと評価できる。</p> <p>以上のように本論文は、高脂血症治療薬が示す抗酸化作用が、高脂血症による動脈硬化進展で認められる酸化ストレスに対して有効である可能性を示したもので、高脂血症治療の発展に寄与する大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			